

## 第2期 第18回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成23年9月7日（水） 14:00～16:10

場所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 11名

保育課長

子育て支援課長

健康課長

健康課保健師

配布資料 1：次第書

2：発達支援事業について

3：障害者計画第1章、第2章（改正版）第3章

4：正誤表

5：災害等による心的外傷後ストレス（秦委員より）

5：第16回議事録

6：第17回議事録

### 1. 開会

### 2. こども家庭部保育課より現状報告

保育課長	けやき保育園とピノキオ幼児園の移動に伴う発達支援についての現状報告。
伊藤会長	報告ありがとうございます。ただ今の報告についてご質問ご意見はあるか。
斉藤委員	資料1と資料2に生涯にわたる、それから継続、専門的な部分が表記されているが、下のほうを見ると年齢が18歳までと決められている。生涯にわたる継続的な支援の部分がどこにも表れていない。私どもの就労支援センターのほうでも、発達障害の方々は18歳以降も家庭生活上でそれぞれ問題を抱えている。その人たちが相談に行く場所が小金井市には全くないので、発達障害の支援センターのようなものが必要だと思っている。その辺が全然表れていないが、どのように考えているか。
保育課長	あくまでも今回はピノキオ幼児園の施設を活用しての事業ということで、その施設面の制約から18歳以降の方々の生涯にわたる相談をここで行うという記述はない。その後の部分についてだが、これを議会に出すにあたり、市長や教育長、理事者のほうにも見ていただき、その中で「18歳以降の支援についてはきちんと考えていかなければならない」と言われている。
堀池委員	18歳以上のところでは、障害福祉課のほうの関係が強くなってくると考えてい

	<p>る。流れとして想定しているのは、この事業が始まることによって、18 歳で切れてしまう方へのつなぎの部分と、もう既に大人になられている方の発達支援相談の2点である。大きく広報はしていないが、斉藤委員のおられる就労支援センターでも就労関係の相談とあわせて対応をしていただいていると思うし、地域自立生活支援センターのほうでも発達支援の相談を受けている。また地域生活支援センター「そら」のほうでも受けている。基本的に大きく窓口を示していないというところで、まず現状の課題を見つけて、相談を受けている様々な部門とどう連携をしていくのかとか、どこを前面に出していくのかとか、そういうことができるのかどうかも含め、障害福祉課として検討していこうと考えている。</p>
保育課長	<p>発達支援事業については障害福祉課だけで検討するのではなく、3部7課全部で連携していこうという約束事になっている。発達支援という事業に関しては、市役所内のどこの課も所管として持っていない。これから発達支援事業について検討するにあたり、3部7課の部長職課長職でプロジェクトチームを発足することは既に市長の決済をいただいております、事務の手続き中である。そのプロジェクトチームが立ち上がると、生涯にわたる支援とはということも踏まえて、18歳以降はどうしていくかというところを、私たち保育課だけでなく市全体として考えていかなければならないと考えている。</p>
斉藤委員	<p>考えてはいるけれども、具体的なことはまだということか。</p>
保育課長	<p>これからである。</p>
伊藤会長	<p>相談事業についてだが、事業概要のところで、発達支援部門と相談部門の間にピノキオ幼児園があるが、発達支援部門は場所としてピノキオ幼児園ということなのか。担当部署が違うということなのか。</p>
保育課長	<p>現在、ピノキオ幼児園については市の職員によって行っている事業である。検討を始めた当初の段階から、市の事業ではあるが、相談部門と発達支援部門の事業に関しては、外部の専門的な方にやっていただくということである。</p>
伊藤会長	<p>専門家に委託するということか。</p>
保育課長	<p>今の状況の中では大きく分かれたということで、線引きをしている。</p>
伊藤会長	<p>どの場所で行うかというのは、別の話ということか。</p>
保育課長	<p>ピノキオ幼児園の施設を活用するということである。</p>
伊藤会長	<p>それとの関連で相談事業については、ピノキオ幼児園にもあるし、保健センターの中にも置くと考えているのか。</p>
保育課長	<p>そうである。私たち市だけで決められるものでもないので、今後の検討の進捗状況の中では市内の様々な関係機関の方々のご意見を伺って連携を図っていかねばならないと考えている。市だけで先に進めていくという気持ちは持っていない。</p>
伊藤会長	<p>よろしくをお願いしたい。</p>

### 3. 議題

「小金井市障害者計画（平成 23 年度改訂）第 3 期小金井市障害福祉計画」策定に向けての検討

伊藤会長	障害者計画 P28 の一番下「障害児保育の推進」の 3 行目に、「巡回指導の実施が課題となっています」とあるが、これは昨年度からか、それとも今年度からか。
保育課長	平成 21 年度から実施している。
伊藤会長	すでに実施されているので、「さらなる充実」とか「発展」というような文章に変えていただきたい。
秦委員	ピノキオ幼稚園は小金井市立の幼稚園なのか、それとも私立なのか。
保育課長	ピノキオ幼稚園は小金井市立幼稚園で、障害児通所訓練施設である。
秦委員	幼稚園ではないのか。
保育課長	幼稚園である。
伊藤会長	では、改めて議題に移る。
事務局	訂正の正誤表と、資料について説明。
伊藤会長	第 2 章第 2 節からご議論いただきたいということであるが、まず、第 1 章第 3 節について、かなり訂正していただいたようだが、これでよろしいか。用語については後で統一するということである。不明な箇所があれば質問していただきたい。
伊藤会長	では第 2 章第 2 節「障がい者施策・事業の進捗状況について」は、各関係課で検討後評価してきたところであるが、その基準について簡単に説明いただきたい。
ジャパン総研 金澤	今回の評価は客観的な評価ではなく、各担当課でやや主観評価になっており、ゴールに対して評価されたものではなく、現状に対してどのような状況かという評価をされている。今後その状態をどのようにしていくかも検討したものを載せてある。  未実施というのは明らかに実施されていないもの。継続に関しては、今行っている状態を継続している、あるいはスタート時から継続して行っているもの。達成に関しては、担当課のほうで達成しようという部分でスタートしていたものが合格ラインに達しているもの。廃止ということであれば、その事業が役目を達成したため廃止というもの。達成であって継続の場合、推進して達成したが、この後その状態を維持継続するというものとなる。
伊藤会長	私たちはこの協議会で全部の項目についてではなく重点ポイントについて評価してきたが、みんなが納得できる客観的評価軸というのはないので、やはり不一致はあると思う。ジャパン総研の金澤さんからご提案いただいたように、検討後の評価についてご意見をいただければありがたい。意見を集約していくときに、今後どうするかというところを中心にしていただきたいと思う。  また、この「障がい者施策・事業の進捗状況について」は、本日に議論を終えないといけない。項目がたくさんあるので、どうしてもというところを中心にご意見をいただきたい。
斉藤委員	P13「②雇用・就労の促進」の「中間的就労の場づくりの検討」のところで、「達成」「廃止」となっているが、多分この「達成」は、障害者自立支援法でどの

	<p>施設も新体系になったからだと思う。形はできたけれども内容はそこまでいいっていないと思っている。例えば、就労継続であれ就労移行であれ、それに向かったの内容になっているとは考えられないので、「中間的就労の場づくりの検討」を「中間的就労の場づくりの充実」にして、「継続」という方向にもっていけないか。内容を充実させていかなければならないと思うので、「中間的就労の場づくりの検討」を完全に廃止するのはなく、充実という形で残していけたらと考える。</p>
伊藤会長	<p>ここは障害福祉課の担当になるのか。</p>
事務局	<p>斉藤委員が言われた通りの意味合いで「達成」「廃止」とさせていただいた。今後は就労支援を継続して充実していく必要があるので、「充実」にして残すかどうかは検討させていただきたい。これは評価のところなので、ここではこのようにさせていただいて、後ろの施策のところでは「充実」を足すかどうかというところも併せて検討させていただきたい。</p>
斉藤委員	<p>「達成」の意味合いはこれでよろしいか。</p>
事務局	<p>「場づくりの検討」という意味での「達成」「廃止」というところは前計画に載っていたので、その部分では「達成」である。検討も終わったという形で、今後は今言った通り、充実のところをやるということであれば、その後ろの新たな施策で載せていくのがいいのではないかと考える。その辺はまた検討させていただきたい。</p>
伊藤会長	<p>「廃止」という言葉はきつい。この項目が全く無くなるようなイメージがあるので、「改善」とか「拡充」のほうがいいような感じがする。その辺は検討していただきたい。</p> <p>その次の第3章「具体的な取り組みの推進」は今日はやらないのか。</p>
ジャパン総研 金澤	<p>「廃止」の事業に関しては3章には反映しない。反映するのは「改善」「拡充」「継続」だけである。</p>
伊藤会長	<p>先ほどのところは3章に反映していただきたいということでよろしいか。</p>
斉藤委員	<p>それでよろしい。</p>
秦委員	<p>P16「⑦保健・医療の充実」のところで、「療育相談」と「重度障害者（児）・在宅難病患者への訪問看護」と「精神保健医療相談」の3つは、当初の目的は一応達成したということで、現状は「達成」でいいと思う。しかし、第3章のP39にそのプランが出ていて、担当部署が全て保健所になっている。保健所でやるのはもちろんだが、これは小金井市の障害者プランであるから、市の担当課が載っていないのはどうなのかと思う。この前のプランでも保健所しか載っていなかった。市としてもどういう取り組みをしていくのかという辺りが無いのはどうかなと思う。</p>
伊藤会長	<p>これはどこが担当しているのか。</p>
秦委員	<p>実際に行っている。療育相談や、難病患者についても申請窓口は市役所が担当している。その中でハイリスクの方は保健所につなげたり、一緒に同行訪問したり、精神の医療相談についてもやっている。市役所に医療費の申請をしに来ていただいた場合は事務的に処理するだけではなくて、ケースワーク的に面接</p>

	相談をしていただいて、生活状態とか医療問題の一定レベルのところを相談していただくというのがある。実際にやっているの、その辺をある程度書いたほうがいいのではないかと思います。
伊藤会長	これは障害福祉課か。
堀池委員	これについては、前回の計画のまま転記されていると思うし、障害福祉課としての窓口業務も当然連携してやっているところである。そこは追記をさせていただくなり、現状と合わせた形で表記をさせていただきたい。
伊藤会長	障害福祉課も表記するという方向でよろしいか。
健康課保健師	現状の業務内容と合わせた形で表記をさせていただく。
伊藤会長	ご指摘ありがとうございます。ご検討をお願いしたい。
吉沢委員	昨日、視力障害者の会の方から電話をいただいた。医療支援のところで、今まで受けていたサービスが変わってきて非常に不安を持っているということで、障害福祉課や社協にも相談しているようだが、やはり制度の仕組みでどうしようもないようである。今まで社協がやっていたサービスが受けられなくなったり、時間的にも経済的にも障害者には負担がかかるようになっており、現実的に自分たちが生活していくうえで不利益を被る可能性があるの、とても不安に思っているという電話をいただいた。13日に話し合いをするようだが、市の障害福祉課にもそのような話は届いているか。
事務局	うかがっている。
堀池委員	今の話はこの計画とどのような関係があるのか。
吉沢委員	関係はないが、お電話をいただいたので関連して申し上げた。
事務局	この件については話し合いを続けている。市としては周知の方向でやっていく。そのうえでいろいろな不確定要素が出てきているので、不安に思われていると思う。また、そういうことがあれば市の担当として出向くことは支障がない。
吉沢委員	丁寧に対応していただきたいと思います。
伊藤会長	その他に何かあるか。
山田満里子委員	言葉の問題かもしれないが、現状が「未実施」で、検討後評価が「継続」となっているのは、未実施の状態を継続するという意味なのか。他に「未実施」で「改善」となっているのは、改善することだというのはわかるが、検討後評価が「継続」というのは着手しないことなのかと取れるので、「未実施」だったら検討後評価は「改善」なり「着手」なり、言葉を変えないとおかしいのではないか。
伊藤会長	これは計画を継続するというではないか。
ジャパン総研 金澤	検討させていただく。
堀池委員	表記の仕方とか、「継続」とは基本的にどういう意味合いを示すのかということのも併せて計画の中に示さないと、これを見る市民や委員の方が、どういう基準で「継続」なのか「改善」なのかというところがわからないと思う。その辺も併せて事務局サイドで検討させていただきたい。それは基本的には記載するべきものだと思っている。

	例えば「①広報・啓発活動の充実」の「各種機関に対する理解促進」では、「未実施」の「継続」になっているが、本来なら消防署・警察署にも障がいのある方への理解促進として障害福祉課の研修を出向いて行うとか、そういう事業をしていくべきであるが、現状は実際にできていないので、この計画は継続して進めていきますという表記だと思う。言葉が3種類か4種類しかないところで選んでいるので、その辺の表記をもう少し検討させていただきたい。
事務局	「検討後評価」という言葉がわかりづらいと思うので、「今後の事業の方向性」というような言葉に変えれば、例えば「継続」であれば、この事業は続くのだなというところでわかりやすくなると思う。その辺は検討させていただきたい。また、委員さんのほうでこの言葉はこういうふうに変えたら一般市民がわかりやすいという意見があれば出していただきたい。
斉藤委員	P17「⑨サービス利用に結びついていない人への支援」の「高次脳機能障害への対応」は、「達成」から「廃止」となっているが、高次脳機能障害への対応を市の障害福祉課で担当していることを知らなかった。うちにもたくさんの高次脳機能障害の方が相談に来られるが、市ではなく、高次脳機能障害の対応をしている関係機関につなげるという形を取っている。例えば、うちのほうに仕事ではなくて、家庭生活や自分のことについての不安などの相談に来られた場合、市に紹介という形でつなげたいと思うが、その辺のところを説明していただきたい。
伊藤会長	これは障害福祉課でよいのか。
事務局	先の中間的なことと同じ意味合いで、計画の本文の「サービスの利用に結びついていない人への支援」の中で、「国等へ支援策の具体化を働きかけ、対応策を検討します」となっている。実際に高次脳機能障害は障害者自立支援法の中に入ると規定されたので、働きかけのところはもう終わりかと思うので、高次脳機能障害の福祉サービスの充実といったものは入れていかなければいけないのではないかと考えている。
斉藤委員	是非、作っていただきたい。生活の仕方とか対処法とか様々な方法があるが、そういうことすら知らないで、それがわかれば彼らも生活しやすくなるのではないかと思う。
伊藤会長	P42の「障害者手帳を持たない要支援者への支援」のところに発達障害や高次脳機能障害者に対してのサービスというのが書いてあり、「専門的知識を有する人材の育成に努めます」と書いてある。ここも「検討後評価」ではなくて「今後の方向性」ということにすれば、もう少しわかりやすいと思う。
事務局	前計画の文からいくと廃止ではないかと思ったので「廃止」と入れさせていただいた。
秦委員	先ほど発達支援事業について話を伺い、保健センター内にも相談窓口を設けるとか、庁内との連携ということも考えているというのを聞いてすごいなと思った。この計画の中にその辺のことを入れていただくと安心である。P28の「①障害児保育・養育・教育の充実」のところにも発達支援のことが入っているし、P40の「障害の早期発見・療育」のところでも読み取れるが、もう少しはっきり

	と、庁内連携とか、生涯にわたる発達支援を継続的に行うというような内容が入るといいと思う。
健康課長	具体的にこれから検討するという内容なので、入れ込むのはなかなか難しい。入るとしたら P40 の「障害の早期発見・療育」の辺りではないかと思う。それと今までの資料だと、P16 の「障害の早期発見・療育」のところが、「改善・拡充」になっているので、多分それが方向性ということになると思う。それと「障害の早期発見・療育」は健康課だけになっているが、今後の見通しをすれば保育課なり障害福祉課も入ってくるのではないかとと思われる。
山田満里子委員	P27 の【現状と課題】の中で、「発達支援センターの整備が進められていますが」というように、「発達支援センター」という言葉を使っているが、保育課長からも説明があったように、「センター」ではなくて「事業」である。本来は生涯にわたるというところで、センター的な役割を持つ理念を出している。実際は「発達支援センター」はないので、これはおかしいと思う。
伊藤会長	理念として今後、発達支援センターの方向性みたいなものは入っているということだが、「整備」という言葉はもう少し変えたほうがいいと思う。
堀池委員	ここは文言的に調整させていただきたい。
秦委員	併せて、精神のほうはまだこれからの課題だという話を伺ったが、若者の引きこもり支援とか発達障害についても必要だと思う。その辺を課題に盛り込んでおくと次につながるのではないかな。
伊藤会長	児童・青年期から成人への移行期のつながりの支援が抜けている。
秦委員	障害福祉課にはいかないというところである。引きこもりの支援というのは他のプランになるのか。
堀池委員	引きこもり支援についてだが、今は各課それぞれに障害福祉計画や高齢者計画、それから健康計画や地域福祉計画をつくっているが、今年度から福祉総合計画として1冊にまとめることになっている。その中で引きこもりというのは、原因も様々で二次障害的なものもあるだろうというので非常に問題である。その中でどこに入れるのかというところで、確か地域福祉計画のほうで盛り込む形を取っているようだ。当然、障害の分野としての二次障害的なところで引きこもることが多いというのは認識しているので、文章的にアプローチしたほうがいいのではないかとはいっている。
伊藤会長	P19 「③災害時の備え」や「④住まいの確保・整備」のところは、協議会で非常に議論になったところだと思うが、その辺でご意見はないか。
秦委員	P13 「②雇用・就労の促進」で「社会適応訓練事業（東京都事業）の利用支援」とあるが、これは事業名なので、評価項目に入れるのはどうかと思う。
伊藤会長	これはほとんど利用されていないということなのか。
秦委員	利用している人もいるが、東京都がやっている事業名である。いろいろな促進事業がある中での1つの事業名なので、これが単体でここに入るのはどうかと思う。
伊藤会長	利用支援というのは利用促進ということか。
ジャパン総研	これに関しては、今見直しをしている現行の計画の中で、そのまま事業として

金澤	推進体制に入ってしまったものなので、評価体制の中の文言を変更するというのは好ましくないと思う。もし、変更したいのであれば、これ以降の第3章で今後の事業体制の名称を変更してもらえないかという申出はできると思う。
伊藤会長	これは P30 に書いてあるが、利用者が少ないから啓発して利用を促進していこうという趣旨なのか。
事務局	例えば、P30 のところで「事業」を取って「社会適応訓練の利用支援」として、本文中に「東京都事業も含めてご案内していきます」というような文言に変更するようにしたい。
山田満里子委員	まだ評価が出ていないところであるが、P14 や P34 の「①居宅生活支援の充実」の「精神障害者デイサービス事業」は、計画の中では「デイケア事業」という言葉になっている。事業名として正しいのか。
ジャパン総研 金澤	修正する。
伊藤会長	P14 と P34 の「精神障害者デイサービス事業」は「精神障害者デイケア事業」にするということである。
山田正市委員	P19「③災害時の備え」に「避難支援プランの整備」とあるが、これを読むと普通の感じがするので、少し言葉を変えたほうがいいと思う。
伊藤会長	計画がこうなっているので変更できない。むしろ今後の計画のところで変えていければと思う。 P46 のところだが、災害時要援護者名簿はもう作成したのか。
堀池委員	名簿はできているが支援まではいっていない。今年度市内でモデル地区をつくって、支援プランに即した取り組みをしていくということである。これに基づいてやっていこうということにはなっているが、なかなか進まない。
伊藤会長	地震も水害も多い災害日本なので、早急にとということである。みんな不安を抱えている。
堀池委員	一番には個人情報の問題が大きいと思う。私は去年、地域福祉課長を担当し、モデル地区になっていただくことをお願いしに行ったが、そこの自治会で一番問題になっているのは、自治会に入っていない方が大半であるということだ。自治会にそういうことをお願いしても、ご了解をいただけるかというのは、やはり総会とかで皆さんの意見を集約しなければいけないと言われた。それも一応クリアしていただいたので、一歩前に進めるということだ。しかし、障壁がたくさんあり、なかなか簡単には進められない。 名簿は市役所が持っているが、今はそれを自治会の人には見せられない。やはり個人の方のところに行って、これを自治会のほうに提供してもいいかという同意を得ないと外に出せない。小金井市役所が持っている個人情報というのは、あくまでも手帳を所持するから私の情報を提供しますというだけであって、その情報を勝手に外に出すことはできない。ルールがあって、その中でやっているというところである。そういう意味では個人情報の問題と、自治会の方々の理解が必要である。ただ、本当に自治会の人に限らず、生の声を聞くと、地域



	で支えるのは当たり前ではないかという方が大半であるが、やはりそれは個々の意見なので、意見をまとめないとなかなか前に進まないという現実である。しかし、この冬ぐらいから地域福祉課のほうでは、そのモデル地区で各対象の方を訪問して同意を得るような作業をしていくという形でスケジュールを組んでいるはずである。
健康課長	ここは地域福祉課を入れたほうがいいと思う。
堀池委員	ここはまだまだ修正するところがたくさんある。
健康課長	同じく P46「医師会・歯科医師会・薬剤師会・接骨師会との連携の強化」のところは健康課も入れていただきたい。
伊藤会長	他にいかがか。
健康課保健師	P40 の「障害の早期発見・療養」の①②で、枠の増加数が細かく出ているのが気になっている。ここまで細かいところは他にないので不自然な感じがする。取っていただいたほうがいいのか。もちろんこの枠も次の年には変更になる流動的なものになるはずなので、入れないほうがいいのか。
ジャパン総研 金澤	変更する。
秦委員	数値目標というのはまた別に出てくるのか。
矢野副会長	数値目標は事業毎の数値が出てくるが、国や都から指針が出てきて数値を入れるので、結局、自主的な数値を立てているわけではない。本来なら地元のニーズがこれだけあるから、市としてはこれだけやるという数値を書くほうが筋だとは思う。前回も国と都の指導で、現状の実績数×何%という数字が出ているので、何の根拠もない。前の課長にはそれを直していただきたいと申し上げた。達成については、充足しているかしていないかという検証をどこでするのかというのが、今回のところではある。そこがなかなかできていないので、表記の仕方で悩んでいる。
山田正市委員	文の書き方だが、「今後も」で始まる文章がたくさん出てくる。改行したり、そのまま続けたりと統一されていない。
伊藤会長	具体的に例を挙げていただきたい。
山田正市委員	例えば、P37『「声の議会だより」の政策（情報提供体制の充実）」のところでは、「定例会または～」という文章があって、改行して「今後も～」と文章が続いている。
伊藤会長	改行しないで続けたほうがいいのかということか。
山田正市委員	そうである。
伊藤会長	現状とこれからという意味で改行しているのではないかと思う。
山田正市委員	改行は揃えたほうがいいのかと思う。
伊藤会長	文章の流れ的にということか。必ず揃えるのは難しいと思う。
矢野副会長	「声の広報」でいけば、今はカセットテープで提供しているということである。録音媒体ということで、今後はMDとかCDとかになるという意味だと思う。それは利用者のニーズと要求に対応してボランティアの協力で録音ができるかどうかということと、録音機器を市が用意できるかどうかということである。

伊藤会長	山田正市委員の意見は、文章的に「今後も」という文章の改行するしないを揃えたほうがいいのかということである。
矢野副会長	P28にも「今後も」というのがたくさん出てくるが、内容がどう伝わるかだ。
事務局	事務局で整理させていただく。
山田満里子委員	細かいことで恐縮だが、「障がいのある人」というのは、「障害者」を置き換えている表現だと思う。ほとんどそうになっているが、中に「障がいがある人」という表記がある。どちらでもいいが、どうしてなのか疑問に思った。
伊藤会長	統一したほうが良いと思う。
事務局	同じ意味のものは全て同じ語彙で修正する。
山田満里子委員	児童に関して書いてあるところでは、「障がいがある」という表現が見受けられるので、書いている人が違うのではないかと考えた。ほとんどは「障がいのある」になっているので、多分そちらに統一されると思う。
伊藤会長	P28「特別支援教育の体制づくり」の「ADHD」の表記と日本語訳が若干違う。正しくは「AD/HD（注意欠陥/多動性障害）」である。
山田正市委員	P31「情報ネットワークのバリアフリー化の推進」のところで、「市ホームページの利用を高めるため、使いやすいように逐次見直し、」の後に（）が続いているが、これはどう理解すればいいのか。
矢野副会長	（）の中は「逐次見直し」の中身を書いているだけである。
伊藤会長	「見直し、」の「、」を（）の後に入れればいいのか。
山田正市委員	「（～多言語化に対応した。）」の「。」はいらないのではないかと。
矢野副会長	「逐次見直し」の中身の説明文の終りという意味で「。」をつけたのだと思う。
山田正市委員	P38「市のホームページでの情報提供」のところでも（）がある。
伊藤会長	こういう文章構成は多い。本来なら「。」は（）の後にくるべきである。
秦委員	P37「ケアマネジメント（個別の支援計画）の拡充（相談支援体制の充実）」のところの文章だが、「サービス利用計画作成費を市町村に請求できるようになりました。」の後に、「事業者が少ない」とか、「サービス提供事業者に対する監督・指導が必要です」と書いてある。これは事業者の指導というものもあるだろうが、ケアマネジメントによる個々の相談支援が伸びていないほうが問題ではないか。ケアマネジメントの拡充と書いてあるので、それに合った文章を書いたほうがいいのかと感じる。担当者の意図を聞きたい。
事務局	ここは法律改正によって変わるところなので、文言等は直させていただきたい。今後はサービス利用計画は支給決定前に出せるようになるので、ここは大きく変わってくると思う。
森田委員	現状と検討後評価のところでは、P16⑦の「療育相談」や、P17「⑨サービス利用に結びついていない人への支援」がある。「⑦保健・医療の充実」のところでは「療育相談」を掲げていて、「⑨サービス利用に結びついていない人への支援」の「障害者手帳を持たない要支援者への支援」では「達成」の後が空白になっている。軽度難聴・中度難聴の方はサービスの対象外になっている。それであればP42「⑨サービス利用に結びついていない人への支援」の「国や東京都に働きかけを行っていきます。」の文言の中で、一定の整理ができるのではないかと

	<p>思う。「小金井しあわせプラン」P142「医療との連携」の「障がいの早期発見」の中で具体的な文言として「聴覚検査」を入れている。そうすると、軽度や中程度の難聴が発覚する場合があるが、70dB（デシベル）以下の軽度・中度の難聴者というのは福祉のサービスに該当しない。他の自治体では中度に対して補装具の助成金があるところもあるので、「小金井しあわせプラン」に返答するような形で軽度・中度難聴者支援というのを入れられないかと思う。</p>
伊藤会長	それは全く新しい考えとなる。意見として提出したほうがいいのではないか。
森田委員	<p>「小金井しあわせプラン」の中に「聴覚検査」等々という言葉がなければ、「働きかけを行っていきます」でもいいかと思うが、このような形になっているので、具体的な計画というのがあったほうがいいのではないかと考える。</p>
伊藤会長	「小金井しあわせプラン」からすぐに中度の問題には結びつかないのではないか。
森田委員	<p>高度の難聴者であれば手帳を所持できるので補聴器の交付を受けられるが、新生児で中度の難聴とわかった場合には、言語獲得の大切な器械になるので、それを自費で購入せざるを得ない。福祉のサービスからもれているということになるかと思う。「小金井しあわせプラン」で書いてあるのであれば、何らかの認識をしているという文言が必要なのではないかと思う。大阪市や新潟市、岡山県では、市町村あるいは県レベルでの助成金として作っている。その認識があるというような文言が必要ではないかと思う。</p>
伊藤会長	手帳を所持していない軽度・中度の聴覚障害者に対してということか。
森田委員	<p>中度以上は必要になってくるのかなと思う。そういう流れも他の市町村、県であるようなので、この認識を「小金井しあわせプラン」に合わせて持っておく必要があるのではないかと感じる。</p>
堀池委員	<p>当然、先に策定した市の最上位計画でもある「小金井しあわせプラン」との整合性は図っていくべきものと考えている。どういう形で文言として入れられるかは検討させていただきたい。</p>
健康課長	今の中度以上の聴覚障害者というのは、障害者手帳を持たないのか。
森田委員	<p>日本では70dB（デシベル）以上が障害者手帳を持てる。WHOでは41dB（デシベル）以上は補聴器を必要とすると決められている。もちろん自費では持てるが、制度には乗らないということになっている。</p>
健康課長	<p>そうすると、この「障害者手帳を持たない要支援者への支援」の中に文言を載せるということも大事になるのか。</p>
森田委員	そうだと思う。
矢野副会長	<p>ここでは発達障害や難病に対してのことが書いてあるので、やはり難聴者の文言も入れたほうがいいと思う。</p>
秦委員	<p>同じページにある「LD」と「ADHD」は発達障害といわれるものではないので、消したほうがいいのではないか。</p>
伊藤会長	発達障害の定義というのは難しい。知的障害を入れるかどうかというものもある。
秦委員	むしろ（ ）を入れないほうがいいと思う。
伊藤会長	P42の一番最後に「発達障害（LD、ADHD等）への対応」となっているが、（ ）内

	は削除するという方向で検討をお願いしたい。
山田正市委員	P43 の「現状と課題」の下から 2 行目で「情報伝達や非難・誘導。」となっているが、「。」は「、」の間違いではないか。それと同じページの「公共的建築物等の安心・安全な環境整備」の 6 行目で、「(仮称) 市民交流センター」とあるが、既に「小金井市民交流センター」という名称でパンフレットが回ってきている。
伊藤会長	仮称ではなく正式名称として決まったのか。
矢野副会長	まだ決まっていないと思う。
堀池委員	確認して訂正させていただく。
山田正市委員	「新小金井市民交流センター」としたらどうかと思う。
吉沢委員	もう実際に何回も利用している。手続き上の問題での整備があるということだと思う。
堀池委員	修正させていただく。
山田正市委員	その下の「障害のある人に配慮したトイレの整備」の文章で「市内のコンビニ、ファミリーレストラン等において障害者用トイレが」のところは、「市内のコンビニ、ファミリーレストラン等においても」としたほうが良いと思う。
伊藤会長	そのほうが良いと思う。訂正をお願いしたい。
堀池委員	所管も整理させていただく。
伊藤会長	第 3 章については次回も議論する時間があるので、細かい部分については庁内でも検討していただきたい。委員の皆様も気になるころがあれば、次回でも結構なのでご指摘をいただきたい。
山田正市委員	「達成」のところは、「努めています」とか「図っています」ではなく、他の文言に変えたほうが良いと思う。
伊藤会長	具体的をお願いしたい。
山田正市委員	P44 「②自由な移動の確保」のところは全部「達成」であるのに、説明文の終りが全て「努めます」とか「図ります」になっている。
伊藤会長	達成かどうかというのは担当課でも判断が難しいところがあるので、P44 のほうでもう少し表現したほうが良いとか、具体的に言っていただきたい。次回までに事務局のほうにご意見をいただければと思う。 ではこれで次第の 3 は終了とする。

#### 4. その他

伊藤会長	ここで秦委員のほうからプリントについてのご説明がある。
秦委員	ゲートキーパー指導者養成研修について説明
伊藤会長	次回の開催日時は 10 月 12 日水曜日、時間は 14 時から 16 時、場所は本日と同じこちらの会議室である。事務局より何かあるか。
事務局	本題の議事録の訂正期限についてはその都度メール等でお知らせし処理していきたい。前回の議事録については 9 月 10 日が修正期限になっているので、修正箇所がある方は 10 日までにお知らせいただきたい。
伊藤会長	では本日の協議会は閉会とする。

以上